

山目校舎 なのはなグループ

1 研究主題

豊かな生活につながる授業づくり ～各教科等を合わせた指導の授業改善をとおして～

2 研究テーマ設定の理由

本研究グループの児童は、日常生活における身の自立がほぼ確立している児童、一部または、多くの場面で支援が必要な児童と、実態は、様々である。学校生活の多くの時間は、学級・学年・学団という集団で活動しており、活動ごとに実態差に応じた支援の工夫を行うことで全ての児童が生き生きと参加できる授業づくりに取り組んでいる。

障がい特性から、興味・関心を広げることが難しい児童が多いが、集団の授業においては、「題材」、「友だち」や「教師」、「そのとき起きている出来事」に興味・関心をもち、主体的に取り組む姿こそが豊かな学びの表現であると捉えた。さらには、豊かな学びは、生活を豊かにするものであると考えた。本グループの授業の中心は、各教科等を合わせた指導であり、職員のアイデアや経験を共有しながら、PDCA サイクルを回していくことが期待できると考えた。以上のことから、本研究テーマを設定した。

3 推進計画

月 日	研究活動	内 容
4月21日	第1回全校研究会	
5月18日	グループ研究会①	研究の進め方について検討・確認
6月22日	グループ研究会②	略案様式・個人別チェックリストについて検討
7月21日	グループ研究会③	研究授業に向けて、指導案・個人別チェックリストについて協議
11月17日	情報部主催	iPad 事例研究会
11月29日	学部研修会	「障がいの重い子どものコミュニケーションについて」
12月1日	研究授業	遊びの指導「いろいろぬりぬり」
12月13日	授業研究会	遊びの指導「いろいろぬりぬり」
1月23日	グループ研究会④	グループ研究のまとめ
2月14日	第2回全校研究会	1年次のまとめ(Teams)

4 授業（研究）実践

(1) 本グループにおける共有事項の検討・確認

☆目指す児童像

- ①「人、もの、こと」に興味・関心をもち、自ら考え進んで活動に取り組む姿

②学びを生活に生かそうとする姿

☆研究の目的

- ・研究テーマに沿った授業を計画・実践し、授業を見合い、授業研究会において授業実践の検証や改善を図ることで、目指す児童の姿を育成する。

(2) 1年次目の取り組みについて

昨年度までの4年間は、体育の授業について継続して研究を行ってきた。その成果として、「主体的な学び」の視点で授業改善を行ったことが児童の意欲や満足感につながったことや個人シートと評価表の活用が児童の評価・授業の評価に直結し、授業改善に役立ったことが挙げられた。一方課題としては、児童の実態に即した目標設定の難しさや個人シートや評価表作成の負担が挙げられた。また、学部研修会では、外部講師による「指導と評価の一本化」の講演から多くの学びを得ることができた。以上のことから、次の内容で取り組んだ。

- ① 実態把握を行い、個別の目標、ねらいを整理し、教師間の共通理解を図る。
- ② 負担感をできる限り軽減した形で、アセスメントシートと評価表を活用する。
- ③ 「指導と評価の一本化」に近づくための略案の様式を検討する。
- ④ 「遊びの指導」を題材として取り上げ、児童の意欲や満足感につながる授業改善を行う。
- ⑤ 研究授業、授業研究会の実施。

(3) 個人別チェックシート（アセスメントシートと評価表）の活用について

学習活動、コミュニケーション、行動問題について、個人としてより良い方向に向かうことで、主体的に活動に取り組むことができ、それらがより良い方向に向かうことが豊かな生活につながるものと考え、シートを作成した。活用の際して、以下のように進めた。評価基準は、表1、活用結果は、図1に示す。

- ・課題項目については、授業内容と児童の実態に応じて、関係職員で検討し、適宜変更する。
- ・項目によっては、頻度などを書き込んでもよいものとする。
- ・日常における実態をチェックシートに記録し、評価点の低い項目と照らし合わせながら、授業での支援のポイントを考察し、具体的な手立てにつなげていく。
- ・評価点が少しずつ上がることを目指して、授業づくりのPDCAサイクルを回していく。

評価点	支援量による評価基準	行動の表出状況による評価基準
5	一人ができる	全く見られない
4	部分的な声掛け支援があると一人ができる	まれに見られる
3	部分的支援(視覚支援・身体的支援)があるとできる	見られたり見られなかったりする
2	全面的支援(声掛け・視覚・身体的)があるとできる	比較的に見られる
1	全面的な支援があってもむずかしい	頻繁に見られる

【表1：なのはなグループ 個人別チェックリスト評価基準】

②コミュニケーションのチェックリスト						
【5人で○ 4部分的声掛け一人で○ 3部分的支援で○ 2全面的支援で○ 1全面的支援でも×】						
観点	課題項目	1年Y.S	2年K.T	2年D.Y	2年O.S	2年T.R
あいさつ	口適切にあいさつをする(言葉や身振り)。	2	4	4	2	4
	口適切に返事をする(言葉や身振り)。	1	5	5	2	3
	口話をしている人のほうを見る。	3	5	5	2	4
聞く	口相手の話を聞く。	3	5	5	2	3
	口聞いた内容を理解する。	4	5	3	2	2
	口自分の話を聞いている相手を見る。	2	4	3	2	2
話す	口質問に適切にこたえる(言葉や身振り)。	1	5	5	2	1
	口適切に意思を伝える(要求や拒否)。	4	5	5	2	1
	口適切に報告する。	1	4	1	2	1
	口教師と協働的に活動する。	2	5	5	4	1
対人	口友達と協働的に活動する。	1	4	2	1	1
	口友達と協働的に活動する。	1	4	2	1	1
【5全く見られない 4まれに見られる 3見られたり見られなかったり 2比較的に見られる 1頻りに見られる】						
観点	課題項目	1年Y.S	2年K.T	2年D.Y	2年O.S	2年T.R
その他	口エゴリア(オウム返し)がある。	5	5	5	4	5
	口要求があるとただ自分から人と関わる。	3	5	5	1	1
	口期待のしない不自然な話し方をする。	—	—	—	5	5
口同じ質問をしつこくする。	5	1	5	3	5	1
③行動問題のチェックリスト						
【5全く見られない 4まれに見られる 3見られたり見られなかったり 2比較的に見られる 1頻りに見られる】						
観点	課題項目	1年Y.S	2年K.T	2年D.Y	2年O.S	2年T.R
着席行動等	口離席	1	1	1	2	3
	口姿勢の保持が困難	1	2	1	1	4
	口落ち着きがない	1	1	1	1	2
常同行動	口ロッキング	5	5	5	4	5
	口手かざし	5	5	5	5	1
	口体たたく	5	5	5	5	5
こだわり	口挨拶	5	1	5	1	1
	口奇声	5	1	5	3	1
	口手振へのこだわり	5	5	5	3	5
自備・他害行動等	口物の位置や状態へのこだわり	5	5	5	5	3
	口特定の物へのこだわり	5	5	1	2	3
	口スケジュール等の確認	5	4	5	2	4
感覚過敏等	口噛む	5	5	5	5	5
	口つねる	4	5	4	4	2
	口叩く(頭・顔・体・腕・足)	5	5	2	3	5
口顔打ち	5	5	5	5	5	
口触覚過敏	5	5	5	5	1	
口聴覚過敏	5	5	5	4	3	
口何でも口に入れる	1	1	5	5	3	

7月

チェックシート集計 (いろいろぬりぬり)						
②コミュニケーションのチェックリスト						
【5人で○ 4部分的声掛け一人で○ 3部分的支援で○ 2全面的支援で○ 1全面的支援でも×】						
観点	課題項目	1年Y.S	2年K.T	2年D.Y	2年O.S	2年T.R
あいさつ	口適切にあいさつをする(言葉や身振り)。	4	5	3	3	4
	口適切に返事をする(言葉や身振り)。	4	5	3	3	4
	口話をしている人のほうを見る。	5	5	3	3	4
聞く	口相手の話を聞く。	5	5	3	3	4
	口聞いた内容を理解する。	5	5	3	3	4
	口自分の話を聞いている相手を見る。	5	4	4	3	4
話す	口質問に適切にこたえる(言葉や身振り)。	4	4	3	3	4
	口適切に意思を伝える(要求や拒否)。	5	5	3	3	4
	口適切に報告する。	5	1	3	3	4
	口教師と協働的に活動する。	4	3	2	3	3
対人	口友達と協働的に活動する。	3	3	2	2	3
	口友達と協働的に活動する。	3	3	2	2	3
【5全く見られない 4まれに見られる 3見られたり見られなかったり 2比較的に見られる 1頻りに見られる】						
観点	課題項目	1年Y.S	2年K.T	2年D.Y	2年O.S	2年T.R
その他	口エゴリア(オウム返し)がある。	—	—	4	5	5
	口要求があるとただ自分から人と関わる。	—	—	5	5	5
	口期待のしない不自然な話し方をする。	—	—	5	5	5
口同じ質問をしつこくする。	1	5	3	5	1	
③行動問題のチェックリスト						
【5全く見られない 4まれに見られる 3見られたり見られなかったり 2比較的に見られる 1頻りに見られる】						
観点	課題項目	1年Y.S	2年K.T	2年D.Y	2年O.S	2年T.R
着席行動等	口離席	1	5	2	2	4
	口姿勢の保持が困難	2	2	2	4	3
	口落ち着きがない	—	3	2	2	4
常同行動	口ロッキング	4	3	2	2	4
	口手かざし	5	5	4	5	5
	口体たたく	5	5	5	5	5
こだわり	口挨拶	5	5	1	1	1
	口奇声	4	5	3	1	5
	口手振へのこだわり	4	5	3	1	5
自備・他害行動等	口物の位置や状態へのこだわり	5	5	2	4	3
	口特定の物へのこだわり	4	5	2	1	1
	口スケジュール等の確認	4	5	4	3	3
感覚過敏等	口噛む	5	5	5	5	5
	口つねる	5	5	4	5	5
	口叩く(頭・顔・体・腕・足)	5	5	4	5	5
口顔打ち	5	3	5	5	2	
口触覚過敏	5	5	5	4	4	
口聴覚過敏	5	5	5	4	4	
口何でも口に入れる	2	4	5	4	5	

11月

チェックシート集計 (いろいろぬりぬり)						
①学習活動のチェックリスト						
【5人で○ 4部分的声掛け一人で○ 3部分的支援で○ 2全面的支援で○ 1全面的支援でも×】						
観点	課題項目	1年Y.S	2年K.T	2年D.Y	2年O.S	2年T.R
表現	口自分の好きな色を5色の中から2色選ぶ。	5	5	5	5	5
	口絵の具に手で触る。	5	5	5	5	5
	口絵の具を手で混ぜる。	5	3	5	5	5
	口絵の具で自由に模様をかく。	—	—	—	—	—
材料・用具	口絵の具を手で触る。	5	4	5	5	5
	口筆・刷毛を使う。	—	—	—	—	—
	口ローラーを使う。	—	—	—	—	—
鑑賞	口スタンプを使う。	—	—	—	—	—
	口みんなで作った作品に注視するなど関心をもって見る。	4	5	3	2	4
③行動問題のチェックリスト						
【5全く見られない 4まれに見られる 3見られたり見られなかったり 2比較的に見られる 1頻りに見られる】						
観点	課題項目	1年Y.S	2年K.T	2年D.Y	2年O.S	2年T.R
感覚過敏等	口触覚過敏(絵の具・ドロドロ)	5	5	5	4	4

1、2回目

チェックシート集計 (いろいろぬりぬり)						
①学習活動のチェックリスト						
【5人で○ 4部分的声掛け一人で○ 3部分的支援で○ 2全面的支援で○ 1全面的支援でも×】						
観点	課題項目	1年Y.S	2年K.T	2年D.Y	2年O.S	2年T.R
表現	口自分の好きな色を5色の中から2色選ぶ。	5	4	5	5	5
	口絵の具に手で触る。	5	5	5	5	5
	口絵の具を手で混ぜる。	5	—	5	5	5
	口絵の具で自由に模様をかく。	5	4	5	5	5
材料・用具	口絵の具を手で触る。	—	—	5	—	5
	口筆・刷毛を使う。	5	5	5	5	5
	口ローラーを使う。	5	4	—	5	5
鑑賞	口スタンプを使う。	—	—	—	—	—
	口みんなで作った作品に注視するなど関心をもって見る。	5	4	—	5	5
③行動問題のチェックリスト						
【5全く見られない 4まれに見られる 3見られたり見られなかったり 2比較的に見られる 1頻りに見られる】						
観点	課題項目	1年Y.S	2年K.T	2年D.Y	2年O.S	2年T.R
感覚過敏等	口触覚過敏(絵の具・ドロドロ)	5	5	5	5	5

3回目

【図1：なのはなグループ 個人別チェックリスト様式及び記入例】

(4) 遊びの指導「いろいろぬりぬり」(絵の具遊び)の実施

「遊びの指導」は、1、2年生の学校生活の中心であり、子どもたちが大好きな授業である。しかし、題材や素材によっては、苦手意識をもつ児童や自由に遊ぶことに難しさを感じる児童もいる。特に感触遊びは、その様子が顕著に表れる題材ではあるが、身の回りは、たくさんの感触であふれており、より多くの素材を知り、楽しく遊ぶことができるようになることは、豊かな生活につながるものと考えられる。

9月に実施を予定していた「絵の具遊び」は、新型コロナウイルス感染症の状況により、研究授業、授業研究会とともに、12月の実施となった。以下に概要を示す。



授業研究、および授業研究会

研究授業 12月1日(木) 10:50~11:35 授業者:佐藤詩織他
☆主体的に活動するための支援のポイント ・自分で考えて活動できるように、イラストや写真を使用して視覚的な支援を充実させる。 ・自分で選択、決定できるように、児童によって選択肢を調整する。 ・既習の活動を役立てることができるように、前時までの学習の様子を写真を使って振り返る。 ・自分から行動できるように、片付けのタイミングを音楽で伝える。
授業研究会 12月13日(火) 金濱副校長から 協議の柱「子どもたちが思い切り活動できる場の設定及び豊かな生活につながる遊びのアイデア」
～場の設定他～ (◎よかった点、・新たなアイデア) ◎ドレッシングボトルに絵の具を準備していたのがよい。 ◎動線・道具が整理されていた。 ◎道具置場と片付け場所が2か所ずつあり、分かりやすく活動しやすい。 ◎ブルーシートや紙の大きさが適切。 ◎音楽での片付けの合図がよい。自分から動く様子が多く見られた。 ◎絵の具に染まった手をせっけんで洗うところまで楽しめていた。 ・汚れを気にせず活動できる季節や場所(外での活動、シャワーで片付けなど) ・ブルーシートを全面に敷き詰めることで、さらにダイナミックになる。 ・紙や段ボールを立てて設置することで、垂れてくる絵の具を楽しめる。 ・冬は、雪の上で絵の具遊び。夏は、氷絵の具遊び。
～遊びのアイデア～ ＜絵の具遊びについて＞ ・紙の大きさや形に変化をつける。 ・紙を白に限定せず、黒や紺、透明を使用することで、新しい作品ができる。 ・水風船、霧吹き、穴の開いた缶などの道具を使用する。 ・食紅、小麦粉、粘土などの素材を使用する。 ・水遊びとからめて、洗剤やペットボトルの空き容器を使用して遊ぶ。 ＜その他の遊びについて＞ ・生活に使用するものを使った「ごっこ遊び」(リアルな食器など) ・お店やさん(縁日、太鼓の達人、プリクラコーナーなど) ・キネスティックサンド、プチプチロードなどを公園遊びにつなげるための遊び ・ダンボール、新聞紙などの紙遊び ・寒天、小麦粉、片栗粉などの感触遊び
☆金濱副校長から 協議の柱である「思い切り活動する」は、原因と結果を見通すことで「やってみよう」という気持ちを育てることができる。今回の授業でも、初期の作品では、マークを手掛かりにすることで、チャレンジしてみようと思えた。次はマークをなくし、その次は大きな紙で取り組む。このように、段階を踏んでやっていくことが大事であり、段階を踏むからこそ、今回のような姿がみられた。「思い切り」という部分では、教師間の共通理解が図られていて、約束を守ること以外は、自由に取り組める体制ができていた。 もう一つの協議の柱「豊かな生活」について、「豊かな生活」をどうとらえるか。豊かな生活の一つとして、夢中になれるものを探ることが大事だと考える。夢中になれるものに接していると、心が豊かになれる。それを一つでも多く見つけることができる場所、それが「学校」である。

5 実践のまとめ

(1) 成果と課題

- 昨年度の課題を踏まえた形のチェックリストが実態把握、個別の目標、ねらいの整理や教師間の共通理解に役立った。
- チェックリストの活用が、児童の変容の見とりと授業改善に役立った。
- 略案の中に評価基準を設けたことで、誰が見ても同じように評価することができた。
- 授業研究会をグループワーク形式で行ったことで、発言しやすい雰囲気ができ、たくさんの意見やアイデアを引き出すことができた。
- グループの枠を超えて授業研究会を行ったことで、活発な意見交換ができた。
- チェックリスト・略案の活用が授業提案の場面にとどまった。
- チェックリストの項目と判断基準、略案の様式の改善が必要。
- 授業提案者の負担の軽減とグループ全体での研究にするための工夫。

(2) まとめ

今年度は、1、2年生の児童が大好きな「遊びの指導」に焦点を当てた。子どもたちが夢中で遊び、思い切り活動するために必要な環境や支援について、グループ全体で検討した。特に場の設定や素材の提示の仕方については、授業者間で繰り返し話し合い、改善してきた。子どもたちが安心して活動でき、流れや内容が定着するように、繰り返し行うことで、児童が自ら楽しいと思える方法を見つけ、思い思いに遊ぶ姿が見られた。研究会の副校長からでも話題になったが、「遊び」は、どの子にとっても「夢中になれるもの」であり、今回の授業は、子どもたちの豊かな学校生活につながったものと感じた。

次年度においても、今年度の課題を解決しつつ、研究テーマに沿った授業を計画・実践し、検証や改善を図ることで、目指す児童の姿を目指していきたい。

<資料>

- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校「生活科」文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター
- ・アセスメントで授業が変わる 特別支援学校・学級で生かす子ども理解と支援のアイデア 青山眞二編 北海道教育大学附属特別支援学校著